

国スポ、新時代の幕開け

27日から北海道でスタート

国民体育大会から名称変更して最初の大会となる国民スポーツ大会が27日、北海道苫小牧市で始まった。スケートとアイスホッケー競技が行われ、2月21日からは山形県内でジャンプなどのスキー競技が開催される。1946年に始まり、「国体」の略称で親しまれてきたスポーツの祭典は、「国スポ」として新たな一歩を踏み出した。国体は第2次世界大戦後の復興のシンボルとして、長らくスポーツ文化の定着や発



フィギュアスケート・少年女子ショートプログラム

展に寄与してきた。大会を国や開催地と共催する日本スポーツ協会（JSP0）は、スポーツ人口を増やすだけでなく、スポーツが競技者や家族や観戦者にとって、より価値のあるものにしようと努めている。

10月に佐賀県で行われる本大会では、個人選手の表彰や一部競技のナイトゲーム開催などの新しい取り組みを準備。動画配信サイト「JSP0 TV」国スポチャネル」では配信試合数を昨年より増やす予定。JSP0の森岡裕策（専務理事）は「お家のなかでも楽しめる環境を整えたい」と意欲を語った。



ショートトラック・少年男子1000メートル決勝A

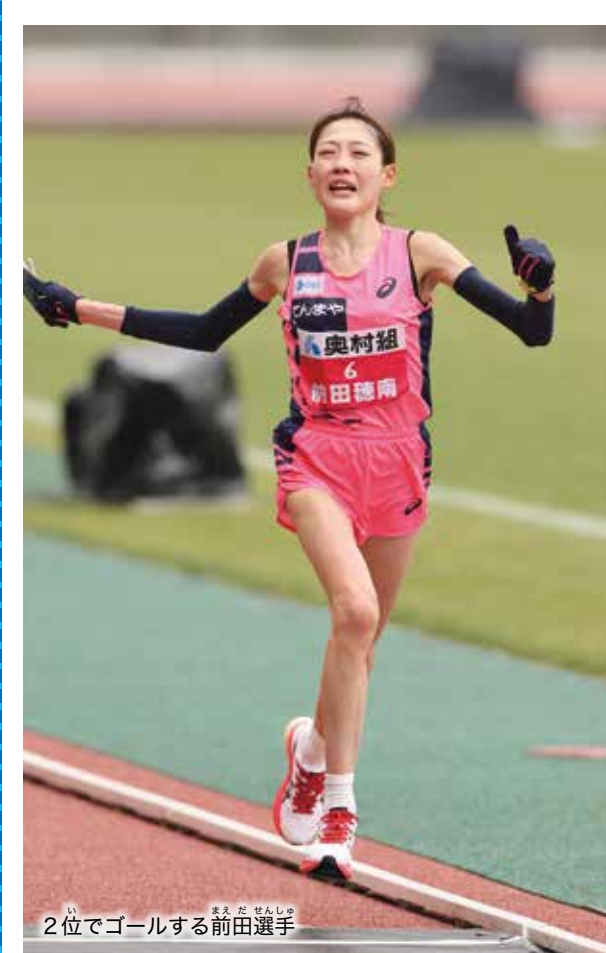
国スポチャネル」では配信試合数を昨年より増やす予定。JSP0の森岡裕策（専務理事）は「お家のなかでも楽しめる環境を整えたい」と意欲を語った。

前田選手がマラソン女子で19年ぶりの日本新記録



日本新記録をマークし、記念撮影に応じる前田選手

女子マラソンの前田穂南選手が28日、大阪国際女子マラソンで2時間18分59秒の日本新記録を樹立した。野口みずきさんが2005年のベルリンマラソンでマークした2時間19分12秒の記録を19年ぶりに更新した。パリ五輪日本女子代表の残り1枠を争うこの大会は、大阪市のヤンスタジアム長居を発着点とする42・195キロのコースで行われ、ウォルケネシユ・エデサ選手（エチオピア）が2時間18分51秒の大会新記録で優勝。2位の前田選手は五輪代表の条件となる設定記録（2時間21分41秒）を突破した。3月の名古屋ウィメンズマラソンで今回の記録を上回る日本選手がいなければ、前田選手が21年東京五輪に続いて代表となる。



2位でゴールする前田選手

伊藤選手が今季2勝目 女子W杯ジャンプ

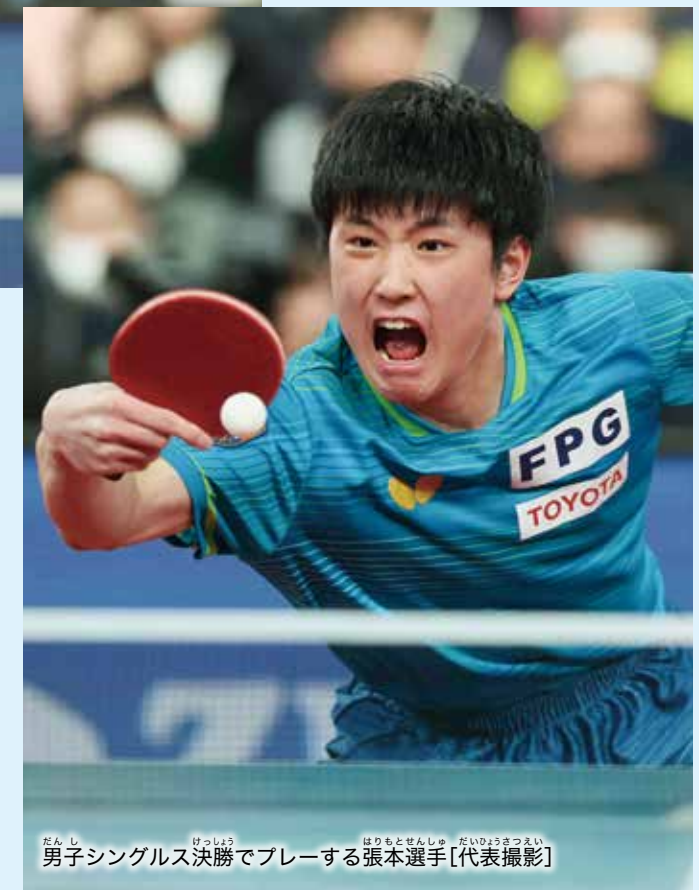


W杯ジャンプ女子・個人第10戦で優勝した伊藤選手

ノルディックスキージャンプ女子のワールドカップ（W杯）は14日、札幌市大倉山ジャンプ競技場で個人第10戦が行われ、伊藤有希選手が124・5メートルと129・5メートルを飛び、合計230・1点で今季2勝目を挙げ、総合順位でも2位につけた。昨年12月の開幕戦以来の通算9勝目。続いて19日に2月に行われる国民スポーツ大会の会場にもなる山形市のアリオンテック蔵王ジャンプで行われた個人第11戦でも、伊藤選手は90メートルと最長不倒距離の101・5メートルを飛び、合計223・1点で2位に入った。



女子シングルス決勝でプレーする早田選手【代表撮影】



男子シングルス決勝でプレーする張本選手【代表撮影】

卓球の全日本選手権最終日は28日、東京体育館でシングルの決勝が行われ、女子は早田ひな選手が2年連続3度目、男子は張本智和選手が6年ぶり2度目の優勝を果たした。

女子は早田選手が3度目、男子は張本選手が2度目の優勝 全日本卓球



W杯ジャンプ女子・個人第10戦、伊藤選手、1回目の飛躍

伊藤選手は「（総合優勝は）狙い続けた先にあるかもしれない。遠い目標ではあるが、1試合1試合の積み重ねがそこにつながる」と、自信を深めた様子で話した。